
或る改造人間のプロフィール - - 怪人サボテグロンの栄光

晶輪寺零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

或る改造人間のプロフィール - 怪人サボテグロンの栄光

【Nコード】

N5038Q

【作者名】

晶輪寺零

【あらすじ】

サボテグロンは改造人間である。彼を改造したショッカーは世界征服を企む悪の秘密結社である。サボテグロンは、ショッカーの世界征服の為、戦うのだ！

サボテグロン。

彼は組織内でこう呼ばれていた。シヨツカーメキシコ支部の下級幹部である。

シヨツカーとは、旧ナチスドイツの生化学者を中心とした、人体改造を研究する秘密結社であった。このシヨツカーは世界各国の要人、権力者、政界財界などの大物と裏から癒着し、人体改造実験による人類征服を目論んでいるという。世界征服などと言う漠然とした目的が達成できるのか、どこまで本気なのかサボテグロンには疑わしかったが、兎も角も彼はその組織内で着々と実績を上げ、首領からも存在を認められるに至ったやり手である。紛争の耐えない南米各地に足を伸ばし、その爆破工作の手腕をいかん無く発揮し、シヨツカー各支部においてメヒコにサボテグロン在り、と称されるほどの実績を上げた有能な人物であった。

何故これほどまでに目覚ましい成果を上げる事に成功したのか、彼は脳改造を受けていない希少な怪人だからである。普通、改造人間は殆ど脳改造を受ける。何ととっても人体実験同然の扱いを受けるのだから、普通ならば改造手術など拒否するのが当然で、殆どが本人の意向を無視して強制的に怪人に仕立て上げるのだが、彼は違った。自分から志願したのである。勿論、脳改造を受けていないからと言って誰もがこのように戦果を達成する事はできない。サボテグロンの場合、前歴も普通とは違う。軍人なのである。

メキシコ陸軍で爆発物取り扱いを中心とした特殊部隊に所属していた彼は、任務の最中大怪我に見舞われた。一命は取り留めたものの再起はほぼ絶望的で、軍から恩給を受けながら残りの人生を無為に過ごす廃人同然の生活を覚悟せねばならないほどの重症であった。

そんな彼に声をかけてきたのがシヨツカーである。

最初、組織はいきなり怪人などに改造はしない。とりあえず、再起不能の重傷を負った彼を自由に動ける体にした上で、本人の了承を得るのであった。後には誘拐等による、殆ど強制的な改造手術を強行する事がしばしば見られたシヨツカーだが、この頃は組織の黎明期で無茶な事は手控えていた。それに、有能な人物を加入させたかったと言う事も理由だった。脳改造などを施せば、操り人形同然の状態となり、恰も南米ハイチのブードゥー教に伝わるゾンビ同然の存在になるだけであった。因みにゾンビとは、生きた人間を薬物等によって一種のロボトミー状態にして命令通りに使役する呪術であつて、死人ではない。複雑な特殊作戦をやり遂げるには脳改造などを施すわけにもいかず、自発的な意思で組織に組み込みたいのであつた。人生を諦めていたも同然の彼は喜んで怪人への改造手術を志願した。そして彼はサボテンの怪人、サボテグロンとして新たな命を与えられたのであつた。

シヨツカー科学陣が開発した通称『メキシコの花』と呼ばれる生体特殊爆弾を使つたサボテグロンの活躍は目覚ましいものであつた。前述の通り、彼はその前歴を生かした爆破工作を次々と達成し、大いに名を轟かせた。サボテグロンの行くところ、メキシコの花が咲き誇り、真紅の花弁を舞い散らせて輝かしき実績を祝福するのであつた。

現在でこそ下級幹部のサボテグロン、この活躍でゆくゆくは上級幹部に出世も夢ではないと言うほどの名声を築くに至つた。同じ下級幹部でも後輩には脳改造を受けた怪人が多く、と言うより殆どがその処置を施され、出世競争などでサボテグロンを脅かすような野心を秘めた存在は居なかつた。便宜上、幹部という肩書きを与えてはいるものの、完全に実験動物か捨て駒同然の存在であつた。彼の行く末は順風満帆であつた。

そんなサボテグロンに、辞令が下った。

日本支部に出向せよ、との首領からの命令であった。

何でも、改造人間が一人脱走し、日本支部の幹部たちが次々と倒されていったとのことである。

『サボテグロンよ 』

組織の中で、誰一人顔を見たことの無い首領がメキシコ支部のサボテグロンに命令した。

『日本支部はこの脱走者の為に多大な被害を蒙り、作戦遂行もままならず、壊滅の危機にある。紛争地域において多大な実績を上げたその腕前で、危機的な状況にある日本支部を救ってはくれぬか』

「ヒヒヒー」

改造手術の後遺症で、喋るときにも意味不明の奇声を発するという嘆かわしき状態にあるサボテグロンだったが、首領に恭しく叩頭した。

「承知いたしました、シヨツカーの為とあらばこのサボテグロン、微力ながら全身全霊を持って任務に当たる次第 』

『うむ、期待しておるぞ、サボテグロン』

「ヒヒヒー！」

サボテグロンは改めて叩頭した。

『この任務を達成した暁には、最高幹部としての待遇も考えておる』
首領の言葉に、サボテグロンは一層高揚した。

現在、シヨツカーの最高幹部はゾル大佐、死神博士、地獄大使の三名である。彼らに次ぐ、四人目の最高幹部としての道が開ける。遂に来た、と彼はその輝かしい未来を確信した。

「首領 』

サボテグロンは力強く答えた。

「御安心下さい、首領。このサボテグロン、必ずや首領のご期待に応えてごらんに入れますゆえ、大船に乗った心持で」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5038q/>

或る改造人間のプロフィール - - 怪人サボテグロンの栄光

2011年10月5日21時07分発行